

平成22年4月25日

～こうなると♪ いいな日置谷♪～
「幸せの里」づくり計画
(地域コミュニティ計画)



日置谷“幸せの里”づくり協議会

I 日置谷活性化の扉を満開に

「A」さん、あなたは、どんな日置谷を望んでおられますかと、アンケートを試みました。地区内251世帯に、アンケート用紙を配布しました。278枚の回答を、いただきました。回答の綴りに、皆さんの望んでおられる地域づくりの姿が、浮かんできました。

- ◎ 住む人の不自由さや不便さが軽減される、安全な日置谷に（集落に）♪♪
- ◎ 最高でなくても平均的でよい快適さを味わうことが出来る、豊かな日置谷に（集落に）♪♪
- ◎ 老いも若きも縁ある皆が将来に夢の持てる、安心の日置谷に（集落に）♪♪
- ◎ 一人一人が大切にされる日置谷（集落）、一人一人の貢献が生きがいの一部になるような日置谷に（集落に）♪♪

※「A」は、あなたのお名前で
（集落）は、居住集落名でお読み下さい

内容は多岐にわたっています。今の“里”づくり協議会には、力量不足で夢と思えるものが多くあります。しかし、それらを除外する事なく、目標や計画として整理していきます。

- △ 自分たちの力を集め、私たちの取り組みで、実現が可能になるもの
- △ 行政と私たち住民が力をあわせて、実現が図られるもの
- △ 行政（市、県、国）の施策を、待たなくてはいけないもの

目標の実現に向けては、取り組み方を整理する必要があります。協議会の組織拡充・強化や力量を高めることも必要です。年度毎に事業計画に立案し取り組みが始められるよう、地域づくりの扉を大きく押し開く事が出来るよう、また、みんなが参加、全戸で扉が開くように願いながら、まとめを進めます。

II 日置谷を「大姿見」に（現在の日置谷）

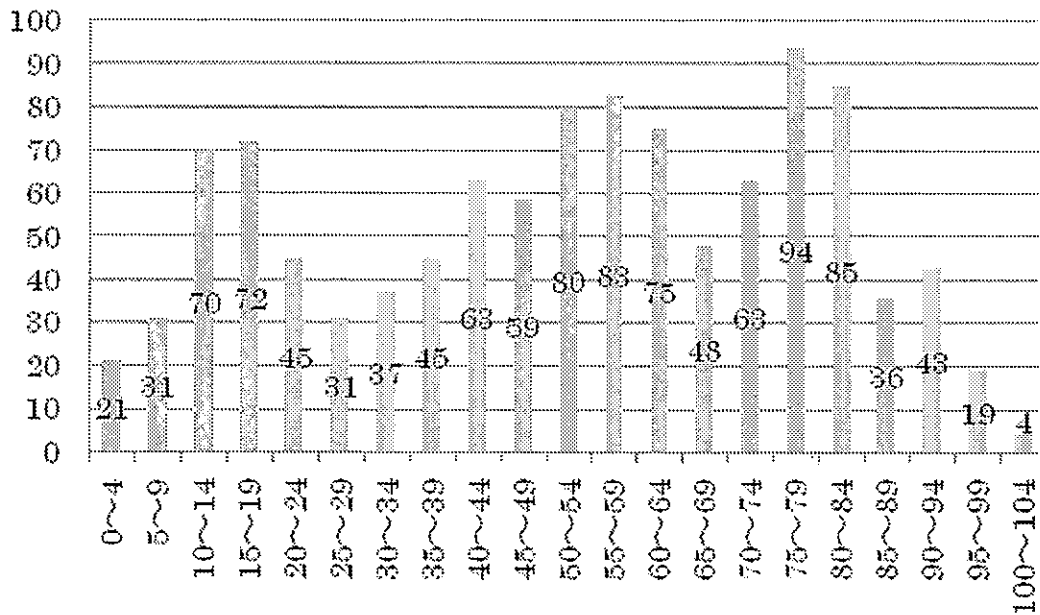
1. 数字が示す日置谷（基礎資料）

1. 人口と世帯数（平成21年12月31日現在の住民登録より）

	蔵内	大坪	奥崎	養郷	善田	合計
世帯数（世帯）	62	71	72	44	165	414
人口（人）	202	222	226	155	299	1104
人口男（人）	97	109	109	81	115	511
人口女（人）	105	113	117	74	184	593

2. 年齢構成 (平成21年12月31日現在)

(1) 集落別5歳階級別人口 (日置谷地区全体)



(2) 集落別年齢中央値

中央値：年齢順に一列に並んだとき、真ん中の人の年齢

(単位：歳)

	蔵内	大坪	奥崎	養郷	善田	日置谷全体
全体	51	56	54	45	65	54
男	48	51	53	42	56	52
女	53	57	54	48	75	56

(3) 集落別年代層別人口

蔵内

年齢	0～19 (%)	20～64 (%)	65～ (%) [その内 75～ (%)]
男	22人(22.7)	49人(50.5)	26人(26.8) [15 (15.5)]
女	18 (17.1)	52 (49.5)	35 (33.3) [22 (21.1)]
計	40 (19.8)	101 (50.0)	61 (30.2) [37 (18.3)]

大坪

男	19 (17.4)	63 (57.8)	27 (24.8) [15 (13.8)]
女	12 (10.6)	54 (47.8)	47 (41.6) [32 (28.3)]
計	31 (14.0)	117 (52.7)	74 (33.3) [47 (21.2)]

奥崎

男	19 (17.4)	64 (58.7)	26 (23.9) [21 (19.3)]
女	16 (13.7)	57 (48.7)	44 (37.6) [35 (29.9)]
計	35 (15.5)	121 (53.5)	70 (31.0) [56 (24.8)]

養郷

男	19 (23.5)	49 (60.5)	13 (16.0) [7 (8.6)]
女	13 (17.6)	40 (54.1)	21 (28.4) [15 (20.3)]
計	32 (20.6)	89 (57.4)	34 (21.9) [22 (14.2)]

善田

男	22 (19.1)	50 (43.5)	43 (37.4) [28 (24.3)]
女	34 (18.5)	40 (21.7)	110 (59.8) [91 (49.5)]
計	56 (18.7)	90 (30.1)	153 (51.2) [119 (39.9)]

日置谷全体

男	101 (19.8)	275 (53.8)	135 (26.4) [86 (16.8)]
女	93 (15.7)	243 (41.0)	257 (43.3) [195 (32.9)]
計	194 (17.6)	518 (46.9)	392 (35.5) [281 (25.5)]

3. 集 落

自治会加入単位集落 7 集落、自治会未加入 1 集落

自治会加入困難施設（福祉施設）3 施設

- 注) 自治会未加入集落： 望町 世帯数等は、養郷に含まれる
 自治会加入困難施設： 社会福祉法人青谷福祉会・特別養護老人ホームなりすな
 社会福祉法人青谷福祉会・青谷こども学園
 高齢者生活福祉センターやすらぎ
 いずれの世帯数、人口とも、善田に含まれる

※1 善田を除いた場合の年齢構成比率との比較 《 右が善田を除いた場合の比率 》

	0~19歳	20~64歳	65歳以上	その内75歳以上
男	19.8 → 19.9	53.8 → 56.8	26.4 → 23.2	16.8 → 14.6
女	15.7 → 14.4	41.0 → 49.6	43.3 → 32.9	32.9 → 25.4
計	17.6 → 17.1	46.9 → 53.2	35.5 → 29.7	25.5 → 20.1

※2 善田を除く日置谷地区、全青谷町、全鳥取市年齢構成比率（%）の比較

年齢	0~19歳	20~64歳	65歳以上/75歳以上
地域	日置谷〈青谷；鳥取〉	日置谷〈青谷；鳥取〉	日置谷〈青谷；鳥取市〉
男	19.9〈16.4；20.3〉	56.7〈56.7；60.7〉	23.2〈26.9；18.9〉/14.6〈14.4；9.0〉
女	14.4〈14.7；18.3〉	49.6〈47.1；55.2〉	35.9〈38.2；26.5〉/25.4〈24.6；15.2〉
合計	17.1〈15.5；19.2〉	53.2〈51.7；57.9〉	29.7〈32.8；22.8〉/20.1〈19.7；12.2〉

2. みんなが感じている日置谷(現状と課題)

1. 真剣な将来への思い

全国的に少子高齢化が進み、環境や経済は悪化し、「農業崩壊」へのカウントダウンが始まったとも言われています。この状況は、日置谷地区も例外ではありません。この地域に住む私たちは、この現実を、日々痛感し、日々悩みながら過ごしています。将来を見据え、未来の子どもたちに豊かな日置谷を引き継ぐにはどうしたらいいか、今出来ることは何か、何から始めたらいいのかと、真剣に考えています。

2 産 業 ・ 農 業 ・ 農 地 環 境 に つ い て

農業従事者の高齢化、「農業の後を継げ」とわが子に言えない環境の下、休耕地・耕作放棄地の拡がりは地区内にも見られるようになっていきます。農業環境の破壊は、日置谷地区にあつては自然環境や地域環境の崩壊に直結するものです。農業以外には目立った産業が見当たらないのも現状です。

集団営農、法人化、人材センターの設立など農業経営の効率化・安定化を図ることや、特産品の開発など、地域の中心産業である農業振興は大きな課題です。農業を初めとした産業の活性化と若者の定住促進は、地域にとって重要な課題であると、私たち住民挙つての認識になっています。

3. 自 然 環 境 に つ い て

自然が豊かであることは、私たちの誇りです。しかし、農業の衰退傾向は拭えず、山地や平地を問わず荒地が目立ち、ゴミ捨て場になっている所さえあります。手入れの行き届かない河川の光景も目立ちます。

地区内には、土石流危険渓流や急傾斜地崩壊危険箇所があり、浸水想定区域も広がっています。

河川や山林の手入れ、不耕作地・耕作放棄地への対策から、ゴミや空き缶ポイ捨てゼロ運動や、花いっぱい運動など、幅広い取り組みが必要との意識が高まっています。

4. 高 齢 化 の 進 行 に つ い て

地域の高齢化率が高い中、受診や買い物、預金引き出し等など、地区内では出来ない現状にあります。パソコンのホームページ利用者が皆無(アンケート結果)など情報化社会から疎外された姿が浮かび上がります。高齢者が安心・安全から遠い存在に置かれている現状が見えてきます。一方で、登下校時の子どもの見守りや畑地の管理など、高齢者にかかる負担は増すばかりです。

防犯・防災対策や健康対策をはじめ、高齢者の活動支援、高齢者の見守りや日常生活のサポート体制の確立、交通手段確保の取り組みは、高齢者以外の人にも必要な、重要な課題となっています。

5. 安 心 ・ 安 全 に つ い て

少子化の進行や地区内に公園・遊園地がないなど、子どもたちの地域での触れ合いは希薄となりつつあります。小学校の統合は、通学時の不安をもたらすなど、子どもたちの安全・安心をとりまく環境・条件の悪化が懸念されます。働き盛りの年代層が昼間不在の地域となつており、防災・防犯対策に多くの問題を、日頃から私たちは感じています。防災マップの準備、各集落単位の日頃からの防災・防犯体制の整備、住民全体で役割分担の明確化、意識の向上を図ろうという思いは、拡がっています。

6. 公 共 施 設 の 整 備 に つ い て

旧日置谷小学校は、平成22年4月より廃校、JA支所、駐在所の廃止に続き地区内の公共施設は次々と消えていきます。金融機関、病院、学校、商店・飲食店など日常生活と切り離せないものが地区内から消えていきます。自家用車依存の生活スタイルから見逃されている交通弱者を守る課題についても、その必要性を皆が強く感じています。

地区公民館は、唯一残された公共施設となってしまいました。その整備・充実は、日置谷にとっては、欠かせないこととなっています。又、小学校跡地が、農業振興の拠点施設や老人福祉施設などの誘致により、住民のプラスになるように活用されることや、体育館・グラウンドの機能維持も強く望まれています。

7. 住 民 の つ な が り

アンケートの回答に、小学生から高齢者まで「日置谷の好きなところ」として

- ① 自然が豊かである
- ② 親切で人柄・人間性に優れた人が多い
- ③ 人のつながりがある、集落としてまとまりがある、仲がよく団結力がある

の3項目が、共通して挙げられています。

「住民のつながり」は、多くの課題を解決していく力の根源になっています。

職場や家庭内の多忙化で様々な負担が増え、「出来るだけ地域での付き合いは減らしたい」の意見もあります。地域活動に参加している方からの意見です。貴重な意見として受けとめなければなりません。無理は危険です。出来るときに、出来る力を集める事こそが重要です。先輩たちは、お互いが出せる力を集め積み重ねて、今日の「住民のつながり」を築いてこられました。「住民のつながり」は、一人一人が行う地域での活動を、生きがいの一部に高めてもくれます。日置谷の先人たちが築き上げ、守り続けてきた「住民のつながり」を更に強めながら、「幸せの里づくり」を進めていきます。

Ⅲ 夢 や 思 い を 目 標 に (基本目標、計画目標、施策目標)

基本目標1、美しい自然と魅力にあふれた“里”づくり

計画目標(1) 日置谷の自然と歴史を調べ、学び、記録する

施策目標 日置谷の自然、史跡、伝統行事などを調べ、学び、記録する

計画目標(2) 日置谷の自然を守る

施策目標 河川や山林の手入れ・美化活動、集落単位で自然保護の目標を持つ

計画目標(3) 日置谷の環境美化推進

施策目標 花いっぱい運動、一斉ゴミひろい活動、エコ活動・学習

基本目標2、子どものはじける声に躍動する“里”づくり

計画目標（1）子どもたちのふれ合いの場をつくる

施策目標 各種交流事業の充実、子ども会活動の支援、遊び場の整備

計画目標（2）子どもたちの見守り活動の実施

施策目標 地域パトロールの実施、登下時（通学路、バス停など）の見守り、あいさつ運動

計画目標（3）学校・家庭・地域の連携強化

施策目標 情報交換・子育てなどの相談の場を設ける、地域安全マップ作成、通学路の防犯灯の整備

基本目標3、お年寄りの笑顔で和む“里”づくり

計画目標（1）高齢者の活動の積極的支援

施策目標 各種老人クラブ活動の支援、高齢者のつどい交流の場を設ける、シルバー人材センターの地区内立ち上げ

計画目標（2）高齢者の見守りとサポート活動

施策目標 高齢者の見守り運動、日常生活への近隣でのサポート体制確立、情報化社会に対応する支援、災害時の支援体制確立

計画目標（3）交通手段の確保

施策目標 公共交通機関の確保、福祉バスなどの検討

基本目標4、美しい農村集落と活気に満ちる“里”づくり

計画目標（1）元気ある農業の復活と農地を維持管理できる体制づくり

施策目標 集落営農、地域営農の実現の研究、特産物の開発と販売ルートの研究

計画目標（2）農業後継者の育成

施策目標 リーダーの養成、1ターンUターンの受け皿づくり、農業所得向上運動

計画目標（3）農業を理解し食の文化を広める

施策目標 農業体験を積極的に広げる、農業の技術や知恵を継承する、食の大切さ、安全の学習

基本目標5、安心と安全に包まれ、穏やかに暮らせる“里”づくり

計画目標（1）災害に備える体制づくり

施策目標 防災体制の確立、危険箇所の周知や避難について住民への周知、防災マップの作成、防災訓練の実施

計画目標（2）防犯活動の推進

施策目標 街灯の整備、パトロールの実施、詐欺・悪徳商法への備え

計画目標（3）地区公民館の整備や小学校跡地の活用

施策目標 地区公民館の拠点施設としての魅力を高める、小学校跡地の利用促進を図る

基本目標6、一人一人を大切に、一人一人が参加する“里”づくり

計画目標(1) 住民参加の交流・行事の充実

施策目標 地区敬老会の充実、地区運動会の充実、各種イベントの充実、人権・男女共同参画の学習の場を設ける

計画目標(2) 各集落内の交流・行事の充実

施策目標 活動や行事の継承、近隣同士の声かけ・助け合い体制確立、サークル育成

計画目標(3) 地域の核となる「人と施設」の確立

施策目標 リーダーの育成、“里”づくり協議会役員・集落代表の研修、地区・集落公民館の充実、「日置谷を良くする会」の継承と充実

Ⅳ 目標を行動に (実施計画)

実施計画作成にあたって

計画目標、施策目標は内容が多岐にわたっています。すべてを同時に事業化することは出来ません。これまで取り組んでいる事業を改変・充実させることで実現が図られるもの、今すぐに着手可能なもの、緊急を要するものと、順次、協議会の各年度の事業計画に具体化して取り組みます。

このコミュニティ計画は、平成22年度に決定を見る予定です。しかし、それ以前の段階にあっても、取り組み可能な内容は事業化していきます。

実施計画1、“里”づくり協議会の組織拡充と力量の向上を図る

(協議会委員総会、役員会、総務部、自治会を中心に 平成21年～)

専門部会の定例化、専門部への加入団体・組織の拡大と連携の強化、委員、役員をはじめリーダー研修会、情報交換会や先進地視察の実施、行政が進める地域活動支援・助成制度の勉強会の実施

実施計画2、“里”づくり協議会について住民に周知を図り、意見の集約を進める

(協議会委員会総会、自治会、教宣部を中心に 平成21年～)

「幸せのふるさと日置谷(地域活動規約集)」の全戸配布、アンケート実施、広報「ありのみ」・同別刷りによる広報活動、「日置谷を良くする会」開催

実施計画3、日置谷を調べ、学び、記録する

(総務部、教宣部、地区文化祭「歴史の部」を中心に 平成21年～)

地区文化祭「歴史コーナー」展示、広報・ホームページに掲載

実施計画4、地域の環境美化活動を推進する

(景観・環境部、自治会、教宣部を中心に 平成21年～)

あじさいロード草刈り、ゴミポイ捨て防止の呼びかけ、山地への植樹活動

実施計画5、農業振興への支援式行活動を進める

(農業・地産振興部、自治会を中心に 平成21年～)

若い世代の家庭菜園参加支援

実施計画6、地区敬老会の目的・内容の充実を図る

(総務部、地区敬老会実行委員会を中心に 平成21年～)

祝賀会の前に健康や安心のための講演、公演の実施、住民に敬老会の状況を紹介し高齢者への畏敬・サポートの意識を高める

実施計画7、地区運動会へ小・中・高校生や若者の総参加と、各集落の活性化を図る

(大会運営委員会、大会実行委員会、体育部を中心に 平成21年～)

中・高校生の大会係員制度導入、集落別ゼッケン採用

実施計画8、老人クラブ活動・高齢者支援活動の支援を行う

(自治会、老人ク・老人サ部を中心に 平成21年～)

グラウンドゴルフ練習会・同各種大会支援、DVD利用の手助け呼びかけや高齢者サポート活動の検討と支援

実施計画9、地域の安全を守る活動を推進する

(自治会、地域安全・自主防災部を中心に 平成21年～)

地区自主防災会の結成(21年中に)、集落別防災マップの作成(22年)

実施計画10、地域コミュニティ活動の拠点となる地区公民館の整備に努める

(地区公民館運営委員会・協議会委員総会を中心に、行政と連携のもと 平成21年～)

短期計画(21年度) 地区公民館雇職員の増員、事務室増床工事、高齢者に対応したバリアフリー化、情報化への支援

中期計画(22年度) ホームページの立ち上げに伴うパソコンの増設

長期計画(23年度～) 現在の施設の整備が図られることにより、利用者の利便性が向上し、利用率や更なる学習意欲の向上につながると考えられる。今後も、定期的に地区公民館運営委員会において施設の利用要望について諮問を行い、利用者の実態やニーズに合わせた施設の充実について検討する

実施計画11、青谷小学校南校舎廃校施設を拠点とした、活力ある地域づくりを目指し、利用の促進を行う

(“里”づくり協議会を中心に、行政と連携のもと 平成21年～)

短期計画(21年度) 活用策について検討する。市の予算の検討時期などを勘案し、現状と課題を踏まえながら検討を進める

中期計画（22年度） 活用策を検討し、具体化するため関係機関との協議を進める
長期計画（23年度～） 有効な活用策を図っていく

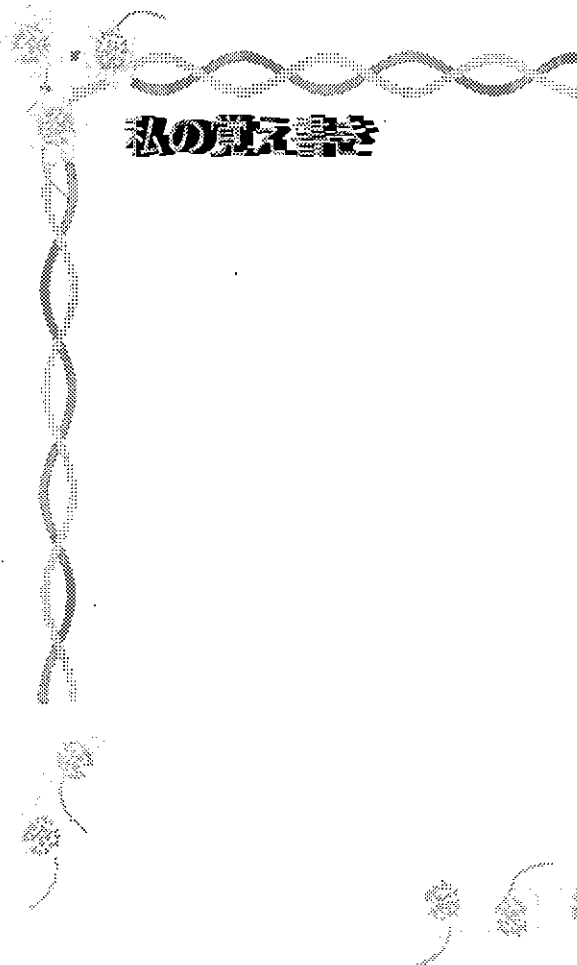
V 事業実施の後に（反省、評価、次の計画）

年度の事業計画を実施した後、参加者や地域の皆さんの意見・感想をもとに評価、反省を行います。最終的には、委員総会で総括を行い、課題や問題点を明らかにしていきます。そして、その内容を次年度の取り組みに生かし、未実施の目標・計画とあわせながら事業計画を立案していきます。

“里”づくり協議会として、定着させていく事業の選定も進めます。

このコミュニティ計画の見直し・修正を求められるときが、必ず来ると予測されます。時間の経過、環境の変化により、見直されるのは、むしろ当然です。

コミュニティ計画の作成は、目的ではありません。この計画は、“里”づくり協議会活動を進めるための、みんなが書き込むみんなの覚え書きです。みんなで取組み、総括を重ね、計画を練り直しながら、時代にあった地域づくり・「幸せの里」づくりを、常に進めていきます。



私の覚え書き

